

『ふじさん言葉を合い言葉としたあたたかな関わり』

藤枝市立青島北小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	・一年生を迎える会・ペア出合いの会 ・サクランボタイム（通年）（ペア活動） ・ロングサクランボタイム（ペア遠足）	【ふじ山ことば】 年間を通して積み上げる。 ☆やさしさいっぱい（基礎） 個を知る。集団を束ねる。 ・ピア・サポート委員会 ・特別支援学級との交流 ・ピア・サポート掲示板 ・あいさつ運動 （通年） ・北中生との交流 児童・生徒が互いに学校へ出向いてあいさつ運動をする。	・ピア・サポート研修・子どもを語る会
5月	・ピア・サポートムービー		・授業を見合う会（同学年） ・スキルトレーニングの紹介
6月	・ピア・サポートスタンプラリー（ピア・サポート委員会によるイベント）	・北中生との交流 児童・生徒が互いに学校へ出向いてあいさつ運動をする。	
7月	・ピア・サポートスタンプラリー（ピア・サポート委員会によるイベント）		
8月		☆げんきいっぱい（意欲） めあてをもち挑戦する。集団の課題に気づく。 ・北中生との交流 児童・生徒が互いに学校へ出向いてあいさつ運動をする。	
9月			
10月	・友垣運動会	☆おはなしいっぱい（実践） 違いを認め、お互いを尊重する。集団でより良いものを創る。	・スキルトレーニングの紹介
12月	・音楽集会ウィーク		・授業を見合う会（1つ上の学年）
1月	・ピア・サポートムービー	☆ありがとういっぱい（感謝） 周りの人やものに感謝の気持ちをもつ。自分自身や集団の成長を確かめる。	・教育課程 今年度の実践及び成果と課題の報告、次年度の取組の検討を行う。
2月	・ペアありがとうの会		
3月	・6年生ありがとうの会		

1 本校のピア・サポート

本校ではピア・サポートを「三方よし」と捉えている。「三方」とは「自分」「相手」「みんな」である。「やさしさいっぱい（人やものに対して思いやりの心をもって接すること）」を基に、「げんきいっぱい」「おはなしいっぱい」「ありがとういっぱい」を積み上げる『ふじ山言葉』を合言葉にしてステージ制を意識した指導を行っている。

2 特徴的な活動

I 特別活動を中心とした全校での取り組み

(1) ピア・サポート委員会の活動

ピア・サポートの花活動・スタンプラリー・ピアサポートムービー【提言3・5・6・7】

昨年度に引き続きピア・サポートの花の活動（見つけたピア・サポートの行動や相手の名前を紙に書き、ポストに投函する）に取り組んだ。集まったピア・サポートの花は委員会の子どもたちが模造紙に貼っていき、前期後期で1つの絵を完成させた。

更に、この活動に積極的に取り組めるように、委員会では3つのことに取り組んだ。昼の放送では、ポストに投稿された良い表れを毎週全校に紹介した。6月には、もっとたくさんの人にピア・サポート活動に携わってほしいと、スタンプラリーを実施し、楽しみながら取り組めるようにした。4月（1年生がピア・サポートについて知る、2～5年生がピア・サポートとは何かをもう1度ふり返る）と1月（来年度に向けて、レベルアップしたピア・サポートをする）に動画を作成し、全職員と子供が共通してピア・サポートに対する意識を高められるようにした。

(2) ペア活動の実施と異学年交流【提言1・4・6】

サクランボタイム

毎月1回木曜日のロング昼休みを「サクランボタイム」としてペア活動を行っている。各クラスの実行委員を中心に遊びを計画して活動を行った。毎回、上級生が下級生の子を教室まで迎えに行き、手を引いて笑顔いっぱいに遊ぶ姿が見られた。また、2月は「ペアありがとうの会」として下級生が中心となって企画し、ペア同士感謝の気持ちを伝える。このように、遊びを通じて異学年の子どもに対する接し方や思いやりの心を学んだ。

II 授業における取り組み

授業を見合う会【提言1・4】

6月と12月に全学級が授業を公開し、同学年や異学年の授業を子ども同士で見合った。お互いの授業を見合うことで、子どもたちは、友達同士が関わり合う姿を見て刺激を受け、真似したいところをたくさん見つけることができた。また、同学年や他学年の子どもに自分達の授業を認めてもらうことで、自信にもつながった。お互いの良さを認め合い、高め合える機会となった。

3 本年度の成果と来年度に向けて

〈成果〉

年度初めに、「ピア・サポート」とは何かをテーマにした動画を作成し、共通理解を図った。また、ステージ制を意識して目標を立て、ステージの終わりにふり返った。そうすることで子どもがピア・サポートの意識をもって生活すること、全職員が共通した子供の姿を目指すことができた。ステージの終わりに振り返りの場をもつことで、課題を把握し次のステージへと繋げられた。

〈来年度に向けて〉

全体を見るとピア・サポートの意識がよく根付いている実感があるが、学年やクラスによって活動の取り組みに差があった。また、ピア・サポートスタンプラリーが終わると、極端に花の枚数が減ってしまうことがあった。花を書くことを目的にするのではなく、子どもがピア・サポートのよさを感じ、実践できるようにしていきたい。